

医療薬学2（内分泌・生殖器・感覚器・皮膚疾患の病態と治療）

責任者・コーディネータ	薬剤治療学分野 三部 篤 教授		
担当講座・学科(分野)	薬剤治療学分野		
対象学年	3	区分・時間数	講義 30 時間
期 間	前期		
単 位 数	2 単位		

・学習方針（講義概要等）

私達は身体を守り、健康を維持し、成長し、子孫を繁栄させるために体内に必要な機構・機能を備えている。そして、多くの病気はホルモンなどの生成・分泌調節の不調や、身体の機能が環境と食生活の変化などに対応できないで発症する。本講義では、代表的な内分泌・生殖器・感覚器・皮膚疾患の病態と治療に対する薬剤治療戦略、使用薬剤に関する代表的な副作用と適用上の注意点、薬物相互作用などについて解説する。また、代表的な処方方を例にとり、薬物治療の意味を総合的に考える能力を養う。

・教育成果（アウトカム）

ホルモンの生理作用、調節機構、関連疾患治療薬に関する知識などを習得することにより、代表的な内分泌・生殖器・感覚器・皮膚疾患の病態、治療薬剤の特徴、使用上の問題点を習得することにより、これら疾患の治療戦略を理解し、説明できるようになる。（ディプロマ・ポリシー：2,4）

・到達目標（SBO）

1. 性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる(672)。
2. Basedow（バセドウ）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(673)。
3. 甲状腺炎（慢性（橋本病）、亜急性）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(674)。
4. 尿崩症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(675)。（☆）
5. 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH 不適合分泌症候群(SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing（クッシング）症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全（急性、慢性）、子宮内膜症、アジソン病について説明できる(676)。
6. 代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる(677)。
7. 緑内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(678)。
8. 白内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(679)。
9. 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(680)。
10. 結膜炎（重複）、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症について概説できる(681)。

11. めまい（動揺病、Meniere（メニエール）病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(682)。
12. アレルギー性鼻炎（重複）、花粉症（重複）、副鼻腔炎（重複）、中耳炎（重複）、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎について概説できる(683)。
13. アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(684)。
14. 皮膚真菌症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(685)。
15. 褥瘡について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(686)。
16. 蕁麻疹（重複）、薬疹（重複）、水疱症（重複）、乾癬(重複)、接触性皮膚炎（重複）、光線過敏症（重複）について概説できる(687)。
17. 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる(688)。
18. 前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(651)。
(☆)
19. 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(652)。
20. 異常妊娠、異常分娩、不妊症について説明できる(653)。
21. 循環系・泌尿器・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる(654)。

・ 講義日程

(矢) 東 103 1-C 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/3	水	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	下垂体ホルモンと関連疾患 1（成長ホルモン、プロラクチン） 1. 先端巨大症、高プロラクチン血症の病態およびその治療薬について説明できる。 【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】 事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
4/8	月	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	下垂体ホルモンと関連疾患 3（抗利尿ホルモン、オキシトシン） 1. 尿崩症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】 事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。

					事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
4/15	月	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>甲状腺ホルモンと関連疾患</p> <p>1. バセドウ病および甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)などの甲状腺関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
4/17	水	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>副甲状腺ホルモン、消化管ホルモンと関連疾患</p> <p>1. カルシウム代謝の異常を伴う疾患(副甲状腺機能亢進(低下)症)について、治療薬の薬理、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
4/22	月	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>膵臓ホルモン</p> <p>1. 血糖の調節機構について概説できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
4/24	水	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>副腎髄質ホルモン+副腎皮質ステロイドホルモン</p> <p>1. 副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing(クッシング)症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全(急性、慢性)について説明できる。</p>

					<p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
5/8	水	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>副腎髄質ホルモン+副腎皮質ステロイドホルモン 2</p> <p>1. ステロイド性医薬品の薬理および臨床適用を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
5/13	月	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>性ホルモン関連治療薬 1 (男性の性ホルモン調節および前立腺肥大症など)</p> <p>1. 男性の性ホルモン調節および関連する疾患関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
5/16	木	1	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>性ホルモン関連治療薬 2 (女性の性ホルモン調節および関連疾患など)</p> <p>1. 女性の性ホルモン調節および関連する疾患関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>

5/20	月	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>性ホルモン関連治療薬 3</p> <p>1. 女性の性ホルモン調節および関連する疾患関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
5/22	水	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>演習 1</p> <p>1. 医療薬学 2 の前半部分の内容を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学習：事前に配布した演習問題に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：演習問題を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
5/27	月	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>感覚器（緑内障治療薬） 1</p> <p>1. 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
5/29	水	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>感覚器（白内障＋黄斑変性治療薬） 2</p> <p>1. 白内障、加齢性黄斑変性およびその他の眼科疾患治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>

6/3	月	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>感覚器（めまい＋動揺病）3</p> <p>1.めまい、動揺病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
6/5	水	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>アレルギー疾患1（アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎）</p> <p>1. アレルギー性鼻炎、花粉症および副鼻腔炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
6/10	月	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>アレルギー疾患2（アトピー性皮膚炎その1）</p> <p>1. アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
6/12	水	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>アレルギー疾患3（アトピー性皮膚炎その2＋蕁麻疹、接触皮膚炎など）</p> <p>1. アトピー性皮膚炎、蕁麻疹およびその他の皮膚疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p>

					<p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
6/17	月	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>皮膚真菌症、褥瘡および薬疹その1</p> <p>1. 皮膚真菌症、褥瘡および薬疹について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
6/19	水	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>皮膚真菌症、褥瘡および薬疹その2</p> <p>1. 皮膚真菌症、褥瘡および薬疹について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学習：当日授業を行う範囲に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：講義資料を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>
6/24	月	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>演習2</p> <p>1. 医療薬学2の後半部分の内容を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google フォーム)】</p> <p>事前学習：事前に配布した演習問題に関して、教科書の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。</p> <p>事後学習：演習問題を利用し、学習した範囲を復習し、重要事項を定着させること。</p>

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第4版	医療情報科学研究所 編	メディアメディック	2014
教	病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 第2版	医療情報科学研究所 編	メディアメディック	2018
教	病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科 第4版	医療情報科学研究所 編	メディアメディック	2018
教	病気がみえる vol.10 産科 第4版	医療情報科学研究所 編	メディアメディック	2018
教	薬がみえる vol.1 第1版	医療情報科学研究所 編	メディアメディック	2014
教	薬がみえる vol.2 第1版	医療情報科学研究所 編	メディアメディック	2015
教	薬がみえる vol.3 第1版	医療情報科学研究所 編	メディアメディック	2016
教	治療薬マニュアル 2019	高久史麿ら 編集	医学書院	2019

・成績評価方法

定期試験の結果（100％）で評価する。

・特記事項・その他

予習は、教科書の授業予定の項目を読んでおくこと。復習は、授業の配付資料を理解し、まとめておくこと。さらに、演習で行った問題をよく調べ、理解しておくこと。授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低30分を要する。授業出欠カードには自由記載欄があり、教員への質問や要望を伝えることができる。質問の解答は、質問を受けた次の週の講義終了後に対応する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	コンピューター	1	講義スライドの映写